



感触遊び

Picoナーサリ新高円寺
2歳児 もり組

テーマ：感触遊び

・テーマを設定する

日頃から泥遊びや小麦粉粘土、水遊びなど手指を使って遊ぶことを楽しんでおり、様々な素材に触れることにより遊びを深めていくため。

・活動スケジュール（2歳児クラス）

活動内容	時間/回	人数/回
① ボトルの中の粉はなあに？	30分程度	6人
② ボトルの中に自然物を入れてみよう	30分程度	6人
③ 自然物と水を混ぜてみたらどうなる？	30分程度	6人
④ 水と様々な粉を混ぜて触ってみよう	25分程度	4人
⑤ 紙粘土と自然物		4人

活動① この粉ってなあに？

・進級当初から小麦粉粘土や泥遊びなど、感触遊びをクラス全体で楽しむ姿が見られていた。また、ままごと遊びを好んでおり、遊びの中で料理をする姿が見られていた為、素材を置いたら興味を持ち遊びが深まるのではないかと考えた。

◎環境をデザインする

・ボトルに小麦粉、パン粉、片栗粉、砂糖、塩の素材を入れ、振って音がするように7割程度まで入れた。また、子どもが気付きやすいよう、ままごとコーナーの棚の上に設置した。

◎探求活動を実施する

○活動内容

ボトルに入った素材を振り、音の違いや味に興味を持つ。

○子どもの様子

・ボトルの容器を振り、音がするもの、しないものがあることに気付いていた。また、素材に触れてみたいという声も上がった。

・「（小麦粉の容器を振りながら）でもさ、音がしないよ」「はやくさわってみたーい」など、中の素材に興味を持ち、触ったらどのような感触なのか不思議がる姿も見られた。

◎振り返りを踏まえた気付き

・順番に振って遊ぶ中で、音の違いがあることに気づいた子どもがいた。一つの素材につき、一つのボトルであった為、貸し借りしながら遊び、一つの素材に注目できたことで、音の違いに気付けたのではないかと感じる。

・パン粉は黄色いなど、色の違いや素材の形の違いなどにも気付き、ままごとで使用することで、料理の中にはどれが使われているのだろうかという疑問にも繋がっていた。



活動② 自然物の音ってどんな音？

音の変化に気付いていたことに着目し、散歩に行った際、自然物に親しむ中で様々な素材をRIボトルに入れ、音の違いを知る活動を行った。

◎環境をデザインする

- ・人数分の透明な袋、ボトル、4枚のトレーを用意した。
- ・秋の自然が多い時期に、沢山の落ち葉や木の実など自然物がある公園に散歩に行った。

◎探求活動を実施する

○活動内容

- ・一人一つ袋を配り、その中に木の枝や砂、石、きのこなど様々な素材を収集した。
- ・一通り収集したあと、トレーに素材ごとに分けて並べ、それらをRIボトルに入れた。

○子どもの様子

- ・「ごんごん」「シャカシャカ」「がたがた」など音を様々な擬音語で表現していた。
- ・木の枝はそのままでは入らない為、折って入れたり、きのこを小さくちぎって入れたりとどのようにしたら入るのかよく考える姿が見られた。
- ・水遊びに親しみを持っていた子どもは、「お水入れて？（砂の入ったボトルの中に）」と話していた。

◎振り返りを踏まえた気付き

- ・散策遊びは日頃から楽しんでいた為、自然物に触れることにも抵抗なく集中して楽しむ姿が見られた。
- ・ボトルの口は小さい為、落ち葉やきのこは小さくちぎって入れる必要があった。
- ・自然物の採取し、種類ごとにトレイに分けてRIボトルへの移行と順序立てて行ったことで、それぞれの活動に集中して取り組み、興味がより湧いていたように感じる。
- ・ボトルに入れて振る中で、水を入れてみたらどうなるのかという気付きが生まれた。園庭遊びの際、朝顔で色水を作ったりと水に触れる機会も多かった為、“水”という存在も身近になったように感じる。



活動③ 自然物に 水を入れて みよう

・前回の水を入れてみたらどうなる?という問いをもとに、RIボトルの中に水を入れてみる。

◎環境をデザインする

自然物が入ったRIボトルを持ち、公園の水道がある場所へ行く。

◎探求活動を実施する

○活動内容

自然物が入ったボトルに水を入れ、音の違いを知る

○子どもの様子

- ・「ちゃいろい」と砂や水の色の変化に気付く姿が見られた。
- ・「じゃばじゃばするおと」と、水を入れる前の音との変化を感じていた。
- ・砂の上に水を入れると最初は二層になっており、混ざるように一生懸命振る姿が見られた。

◎振り返りを踏まえた気付き

- ・子どもの声から活動を展開させたことで、いつも以上に探求心を持って取り組むことができていた。
- ・最初に水のみを入れたRIボトルを用意しておいたことで、水の色が変化したことに気づく姿が見られた。
- ・水を入れてみたいという思いから行った為、音の変化だけでなく、色の違いや混ざりゆく様子までじっくりと観察していた。



活動④ 水と混ぜたらどうなる？

・水に対して興味をもっていた為、様々な素材と水を合わせたらどうなるかという問いをもとに活動を行ってみた。

◎環境をデザインする

小麦粉、片栗粉、砂糖、塩、水、容器（カップ）、食具を用意する

◎探求活動を実施する

○活動内容

素材と水を合わせ、食具を使用して混ぜたり、手で触れてみたりする。砂糖と塩を観察したり、舐めてみたりすることで、味の違いを知る。

○子どもの様子

- ・（片栗粉と水を混ぜて）「なんか雪みたい」
- ・砂糖と塩を舐め比べて、「しょっぱい」「おいしい」「みかん（あまい）」とそれぞれの言葉で味を表現していた。
- ・水を入れたパン粉を触り、「ぽによぽによ」「ふわふわ」など言いながら手の平の感触を味わっていた。
- ・水と粉が混ざりゆく過程を楽しむというよりは、水を沢山入れてもらうことを要求し、スプーンでなめらかに混ぜるとを求めている。
- ・自分で混ぜてみることで水に溶ける素材（砂糖）、沈殿し白く濁る素材（塩）があることを知り、水が透明になる、白く濁るという色の変化にも気づいていた。
- ・最終的には全ての素材を混ぜてみたいとの声上がり、混ぜるという行動を楽しみ姿が見られた。

◎振り返りを踏まえた気付き

・4種類の素材を用意し、それぞれ感触を味わったり、水を入れたあとの変化に気付いたりしたが、素材によっての変化を比較することはまだ発達的に難しかったように感じる。流動性のある活動というよりは、端的にそれぞれの素材を味わう機会になった。

- ・混ぜるという動作が楽しいようで、素材の変化に重きをおくのではなく、すべてを食具を使って混ぜてみたいという思いが強く見られた。



活動⑤紙粘土の変化

・日頃から粘土遊びが好きで、好きなプリンセスを作ったり、ままごとに展開したりして遊んだりしている。普段の粘土とは異なる感触の紙粘土を用意してみた。また、戸外での探索活動や自然物の収集を楽しむ姿が見られているため、紙粘土との融合を味わってみることにした。

◎環境をデザインする

紙粘土、煮沸したどんぐり、落ち葉などの自然物、食紅

◎探求活動を実施する

○活動内容

紙粘土の感触を十分に味わう中で、自然物と融合させたり、色を変化させてみたりして遊ぶ。

○子どもの様子

- ・両腕いっぱいに広げ伸ばしてみたり、友だちや保育士と協力してどこまで伸びるか試していた。
- ・友達が床にくっつくということに気が付き遊ぶ姿を見て、「踏んじったらどうする？」と話す子どもがいた。その為、一緒に踏んでみることで紙粘土の性質を体全体で味わうことが出来た。
- ・「色を付けてみたい。塗ってみたい」という子どもの発言から、急遽食紅を用意し、色を付けてみた。沢山踏むことで徐々に色が変化していく過程を見て楽しんだ。綺麗に色が混ざると、机に戻り、ままごと遊びに展開していた。

○子どもの変化

◎振り返りを踏まえた気付き

- ・よく伸びるタイプの紙粘土を用意したことで、その性質を利用してどんどん遊びの幅を広げていた。
- ・普段感触遊びの際は机で行うことがほとんどだが、人数が少なかったことや衣服、床等に付着するタイプの紙粘土でなかったこともあり、室内全体で遊びを広げることが出来た。机にとられずに遊んだことから、踏んでみたらどうなるのだろうという疑問が生まれたり、壁には付くのかという問いが生まれたりした。

